

今回の研修は、病院やクリニックでの臨床経験のみで訪問看護の分野に携わりはじめたばかりの私にとって、「訪問看護とは」「訪問看護の役割とは」を学ぶ機会であると共に、「看護の基本」を振り返る貴重な経験となりました。

今回同行させて頂いた4件のケースは、それぞれ年齢も置かれている環境も様々ななか、訪問看護やその他のソーシャルサービスを使用しながら、懸命に喜怒哀楽のある生活をしていらっしゃいました。中でも、担当ナースが訪問した時の子供とご家族の方の笑顔がとても印象的でした。お子さんやご家族の方々の「来てくれて嬉しい」という思いが伝わり、スタッフの方の訪問時の的確な観察、対応、ユーモアあふれる雰囲気感動しました。

生活のなかに、家族ではない第三者のスタッフが入っていき、支援を行うという事は決して簡単な事では無く、お互いの信頼関係が成り立っているからこそ強く感じました。

その信頼関係を築いていくためには、すぐには難しいと思いますが、やはり利用者さんを第一に考えること、この基本が根底にある関わりをしていく事だと思いました。

そのためには、その子とご家族を中心に考え、他者と比較をせず、また相手を否定しない。ケアの方法が医療機関での方法と異なっても、その子の生活環境に合った方法を検討し、伝え、出来ている所をたくさん見つけて、相手を尊重していく。また、思うところや改善した方がよいところがある場合は、伝え方、伝えるタイミングを検討することも必要だと学びました。

さらに、訪問が必要な医療的ケア児は快、不快や思いを言葉で表現する事が難しく、そのような子どもたちの訴えをどのようにくみ取っていくかが重要であり、想像ではあるものの、よりその子の訴えを受け止めていくかが大事であると感じました。そのためには、その子の情報をたくさん持っていることが必要で、色々な側面から子どもの状況を判断できるようにする必要性を感じました。

具体的には、例えば泣いている状況があったら、なぜ泣いているのかというのをとらえるために、その子の病態やそれに伴った医療的ケア、内服薬、栄養摂取、発達段階などいろいろな側面から現状をアセスメントし、判断していく。つまり判断材料をたくさん持つておく。そのために病態関連図や内服薬の内容をもう一度確認するなど基本的な事を一つ一つ丁寧に行なっていく事が大切であると感じました。

今回は、4件の同行訪問を通して、訪問看護の実際や看護の基本などを学ばせていただく機会になりました。まだ訪問看護の分野に携わって間もないため、至らないことばかりですが、今後の自分の課題とそのための方法に気づききっかけを頂き、更には訪問看護の多様性、幅広さそして魅力を教えて頂きました。貴重な機会を頂き本当にありがとうございました。

これからも、自己研鑽に励みユーモアを持ちながら、日々頑張っていこうと思います。

今回は、お忙しいなか、お時間をつくって頂いたことに感謝しております。本当にありがとうございました。